

話題 1

加藤澄敏著「ムクナ豆栽培計画」へのオマージュ

湯浅 龍彦¹⁾

Homage to "Mucuna Bean Cultivation Project" by Sumitoshi Kato

Tatsuhiko Yuasa¹⁾

本 SGPAM では、第 7 回定例会でムクナ豆を取り上げた。その第一回のムクナ豆の会には市原市にお住いの加藤澄敏先生が金井正博先生の紹介で参加された。加藤先生はムクナをこよなく愛し、自らも栽培し食されていた。その先生は誠に残念なことにコロナが猛威を振るっていた 2022 年の真夏のある日、ムクナの世話の為に畑に出かけられ、ムクナに看取られるが如くに旅立たれた。先生が手塩に掛けられたムクナ豆を食させて頂いたわが身であれば、誠にいたわしく無念である。

そして、今ここに手元に残されたのが先生のムクナ栽培計画書である。1 月から 12 月までそれぞれの月毎に行うべき段取りが事細かく、かつ要領よく纏められ、ムクナ豆を愛する先生の目線がそこに在る。これはムクナ栽培のこの上ない指南書となるものと確信致し、本研究会誌「ムクナ特集号」に資料として掲載できる運びとなった。先生同様にムクナ豆を愛す多くの方々、会員の皆様には是非ご活用頂けたらと願うものである。掲載をお許し下さいました奥様に心より感謝申し上げる。

令和 6 年 2 月 24 日

1) 鎌ヶ谷総合病院千葉神経難病医療センター・センター長

ムクナ豆栽培計画(資料①)

2022年4月 加藤澄敏

月	主な作業や変化	作業や変化の内容	補足及び備考
1月	*前年の豆の選別等	*前年秋に終わっていない収穫作業の続き	*前年分が残っていても丁寧に選別、保管、販売、寄贈等まで。
	*本年の栽培計画	*種子(種類・選別)、場所、規模などを決めて早めに準備する。	*肥料、無農薬(農薬に代わるものの検討)、関連する必要品
2月	*種まきの準備	*直径7~10cm、高さ=10cmくらいのポット	《注》「肥料」は基本的に使わない。(豆類全般)
		*ポット用土(倍土)、じょうろ等	
		*種子の準備(確保)、種類、数、名札等	
3月	*種まきの準備	*種豆、種まきポット、土、場所などの準備	*種子にする豆は、丸くて大きい豆がよい。ツバメの雛の口のようになっていて、胚芽から一本の芽と一本の根が出てくる。
	①場所	*発芽の条件①=温度	
	②棚	*発芽の条件②=水 ※	
	③ポット、土、	*発芽の条件③=酸素	
4月	*種まき	《参考》種豆の浸水(種まき前12時間位)	*24時間だと皮が剥がれることも
	①4月下旬~5月上旬	①直播き=畑など耕したところに直に播く	*4月上旬に種まきをした時はビニールハウス等で芽出しをし
		※深さは地表から1~2cm位(1株に2個)	気温が上がったら移植する。
		②ポット播き	※ポットである程度成長してから移植する
	*植え付け①	※豆の胚芽から上に向かって一本の芽と	移植時には特に気をつける
	*株間=1m~3m	下に向かって一本の根が伸びてくる	
5月	*植え付け②	①直播き、ポット播きに関わらず、弦が伸びるのに必要な竹や網を設置する	*直播きの場合は発芽しない種もあることを考慮して、一箇所に2個の種豆を植えて、ある程度伸びてから調整する。
	*株間=1m~3m	②根が定着すると弦の伸びが速くなる。必要に応じて伸ばす方向に誘引する。	
6月	*弦がぐんぐん伸びてくる。	①気温の上昇につれて弦の伸び方がいっそう速くなる。	*化学薬品でない「無農薬扱い」の農薬も開発されている。
		②雑草の草刈りや害虫への対応も考える。	
	*雑草、害虫対策	※「無農薬栽培」なので化学農薬は使わない	*木酢液、竹酢液は「道の駅」などで求めることができる。
		※木酢液、酢などを工夫。(ムクナ豆の外側の害虫は工夫すれば消毒できる)	
7月	*弦がぐんぐん伸びて枝葉も多くなり、広がってくる。	※消毒や草刈り作業	《参考》木酢液、竹酢液の使用倍率の情報交換をぜひ。
		※ムクナ豆の弦は、竹が高く飛び出している所などに密集することがある。	
		※上の場合は、日当たり、風通しは悪いので	
		大きく・丸い(良い)豆は期待できない!!	

ムクナ豆栽培計画(資料②)

2022年4月 加藤澄敏

月	主な作業や変化	作業や変化の内容	補足及び備考
8月	*根元に近い方から	*「藤の花」のように、一つの「房」に沢山の	*青、紫、ピンク、白などの色が
	花が咲き始める。	花が咲いて、棚にぶら下がる。	混じった美しい色の花である。
	*花がしおれ実(莢)	*ひとつ一つの花が「莢(さや)」になり、一	*一つの实(莢)に4~7個の「ム
	に変わってくる	つの房が「実(莢)のバナナ」のようになる。	クナ豆」の「実」ができる。
9月	*実(莢)が大きくなり		*放置しておく「実」にはなるが
	新たな花は少なくな	《注》9月23日(秋分)以降の花は切り取る。	大きく育つ時間がないので小さ
	る	*理由は、この日以降に実(莢)になっても、	い豆になるだけ。また、他の豆の
		大きくて丸い「良い豆」にはならない。	成長の妨げになる。
10月	*新たな花の開花が	*根元に近い方の実(莢)から順に「莢の色」	《注》カラカラと音がしても莢から
	減り、実が多くなり、	が「黒く」なって「熟した」ことを知らせる。	取り出さない。「ほぼ熟して」いる
	また、実が大きくなっ	*手指で「軽く揺すったり、叩いて」みて「カラ	がもう少し莢のままで乾燥させる
	てくる	カラ」と軽い音がすると「ほぼ熟して」いる。	《注》2021年の『加藤の失敗』
11月	*低温の日が続いた	*葉や弦が枯れても実(莢)は緑色のものが	*2021年の実で、採り忘れられた
	り霜が降りると「葉は	多い。天候が特に悪くなければ(雨続き等)	実が翌「2022年2月」にきれいな
	萎れ」「弦も枯れて」	なるべく弦に下がった状態で「完熟」させた	実で残っていた。
	くる。	い。	
12月	*寒くなって大変だが	《参考》収穫も大変だが「選別」がより大切。	*9mmマスの篩はホームセン
	「乾燥した晴天」が続	*「豆の大きさ」=大(9mm以上の豆)	ターなどで探すか、DIY(自分)で
	き、ムクナ豆収穫の	*9mmの篩(ふるい)で残ったもの=大	作るか工夫する。
	日々が続く。	*篩から落ちたものは「中」「小」に適当に。	

【 MEMO 】

【10月】 10月の欄に関連して……実(莢)が「黒く」変色して「成熟」を教えてくれる。ここで弦から切り取って更に乾燥させる。このとき、「実(莢)の両端」を「約5mmほどハサミで切り取って」おく。そうすることにより、豆の莢は螺旋状にねじれて自力で弾け、丸い実が飛び出す。